

コロナ禍での活動報告

感染対策を講じての、地域での活動の様子を紹介します。

『大日向 元気にぎにぎサークル』

距離を保ちながら自宅でもできる「タオル体操」や「50音カード」の言葉あそび「わたしのノート」活用方法の共有「塩竈の昔話紙芝居」などを行っています。



『かなえが丘 元氣塾』

「わたしのノート」活用方法を皆さんで共有しました。そして、「タオル体操」や言葉あそびを実施しています。



地域ケア会議

地域包括ケアシステム構築のため、多職種、地域の方々が協働して、高齢者等の実態把握や課題発見・解決、地域のネットワークづくりを目的とした「地域ケア会議」を今年度より毎月定例で開催しています。



災害など不測の事態が起きた場合でも「つながる」ネットワークを目指しています。



写真は5/25開催時の様子です。

6月

《認知症サポーター養成講座》

6月16日 (水) 15:00~16:30

7月の予定

7月21日 (水) 15:00~16:30

《塩竈の昔話を一緒に読んで昔語りをする会》

6月23日 (水) 15:00~16:00

7月28日 (水) 15:00~16:00 (予定)

※開催場所はどちらも『西部包括』支援センターです。

まざってみっぺし

「昔語りの会」始まりました！

第1回日の4/28(水)は、2名の方の参加で、昭和時代の塩竈市の写真を見たり、民話を声を出して読むなど…ゆつたりとした時間を過ごしました。

今後も継続して実施しますので、どうぞ皆さん、まざってみっぺし！



「わかがえり会」

活動再開の第2回目は、西部包括で作成した「わたしのノート」の活用方法を共有しました。今後の活動にについても、皆さんで話し合いをしています。
まざってみたい方は是非連絡下さいね。



イーハトーブ通信

シリーズ
権利擁護④

『高齢者虐待について』～その2～

「認知症の理解を深める」

虐待を受けている高齢者に認知症の症状が多く見られます。

認知症高齢者は、養護者（介護者）の言うことが理解できなったり、判断力の低下など（中核症状）が徐々に見られ、それに伴い問題行動、興奮、暴言、暴力、介護拒否（周辺症状）が現れることがあります。養護者（介護者）がこの状態を理解できず、受け入れないで対応してしまうと症状がさらに悪化する場合があります。

家族に認知症に関する正しい知識が無いため、家に閉じ込めたり、必要な医療や介護を受けさせないという虐待もあります。

〈 認知症理解の対策 〉

- ・ 医師に相談する
- ・ 地域包括支援センターに相談する
- ・ 認知症サポーター養成講座を受講する
- ・ 認知症カフェ、家族の会に参加する

地域包括支援センターでは、認知症高齢者に対する正しい知識や介護方法について、家族や地域住民に理解がなされるような取り組みを行っています。



猫の事務所/宮沢賢治

社会福祉士 伊藤 信子

※「西部包括新聞」のバックナンバーをご希望の方は、ご連絡ください。